

# 近畿ブロック支部活動交流集会

# 女性部だより

年金者組合  
京都府本部  
女性部発行  
2024年  
3月15日発行  
(第197号)

2月28、29日に長浜バイオ大学で近畿ブロック支部活動交流集会が開かれ、6府県全体で1日目全体会147人、2日目分科会110人が参加しました。全体会、各分科会について府本部女性部4人の感想です。

## 第1分科会 「支部活動の交流」

支部活動をもっと豊かにするために、支部執行委員にもっと女性を増やそうとか、地域に根差した班活動を進めている支部がありました。サークルや作品展に取り組み、楽しいことやっているんやでと声かけしている支部も。個人的には「介護のおしゃべり会」に興味を持ちました。私にとって介護は現実です。病気の夫の世話に追われ大変なので、同じ環境にある人たち

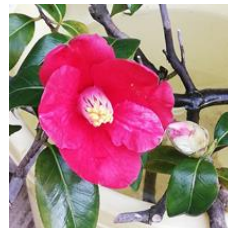


(西田)

とおしゃべりできれば少しは気が晴れそうです。そして「野草で元気」は散策もでき、野草を見つけたら食べ方を考える楽しさがあると思いました。そして皆さんの発言を聞いてみると、女性の活躍は大きいと感じます。「読み聞かせ」で人を集めたり、手づくり作品で「私も作りたい」と参加する人が増えたというところもありました。

高齢者の要求を勝ち取るため「数は力」です。支部、班活動で仲間を増やしましょう！

## 第2分科会 「年金の課題」



## 第3分科会「まちづくり」

補聴器の公的助成制度がある自治体の支部から報告によると、非課税世帯だけが対象だと補助を受けても高く買えないことが多く、利用されないまま予算がつかなくなることもあるそうです。誰もが使える制度にすることが大切だと思います。

また、介護施設の多くは郊外にあり、入所後は自分たちのコミュニティから切り離される。自分たちが入りたい施設を作ろうと提起がありました。

(矢吹)

最高裁兵庫事案の不当判決問題や、女性の低年金問題の報告と、10人余りから熱心な発言がありました。年金の事がよくわかっていない私は「へー!」「ホー?」の連続でした。それでも「わかりにくく」「しかもどんどん改悪されて」「高齢化社会(私らの世代と違う)や世代間対立論(若い人も大きな不安)などで、自覚と共感と運動を広げにくくされている、そこそが国の狙いだということが、少し整理されてわかったと思います。

京都からは、宇治久御山の山本さんが遺族年金で、北上の岸本さんが年金問題が広い共感にならない現状、亀岡の山本さんが最高裁になって裁判が組合全体の意識から遠くなったこと、私は日本の年金が家族単位になっただけで女性の低年金をひどくしている、個人で生きていける年金に変えるべき、と発言しました。

やはり年金者組合は年金の学習を積み重ねなければとあらためて痛感、女性部で年金学習会を計画し、外国の例なども学んでいきたいと思えます。

(粟倉)

第5分科会「うたごえ」

青木実さんのアコーデオン演奏に乗って21曲。リクエストカードに希望する曲名とエピソードを書き、みんなで歌います。「高校3年生」

「青い山脈」「寒い朝」「百万本のバラ」など、青春時代の思い出と共にしっかり心に残っている歌ばかりです。ある方はマイクを握り「美しい10代」を「美しい70代」に替えて拍手喝采でした。

みんなでおしゃべりも楽しみながら、あつという間に時間がたちました。(高橋)



「次期」介護保険改悪と障害者65歳問題」大阪社保協介護保険対策委員会／編  
日下部雅喜 雨田信幸  
日本機関紙出版センター  
900円＋税  
2040年頃に向け負担増と給付抑制に着手する政府に対し、地域からの課題を考えます。

全体学習会

「どうなる、どうする」

高齢者の人権と介護問題」

大阪社保協介護保険対策委員会

日下部雅喜さん

特養に入ると1カ月15万円程度必要とか、在宅でデイサービス週3回とホームヘルパー週4日利用でざっと1カ月4万円以上と聞いて、はい分かりましたと余裕を持って払える高齢者は少ないでしょう。

しかも、在宅ケアを支えるホームヘルパーは、求人率15倍以上の超人手不足。現在のヘルパー年齢は60から70代が中心なので、新しい人材が入ってこない限り自宅でほったらかしにされます。賃金が低い仕事には人は集まらないそうです。当たり前ですね。

施設に入所できても、職員は忙しすぎて教育が行き届かず、知識・技術が未熟なまま勤務して疲れ、虐待につながっているそうです。

なぜこんなことになるのか。国の社会保障関係費のうち介護給付費が少なく、防衛関係費の半分以上しかありません。

5年で軍事費43兆円というけれど、もし5兆円あれば「介護保険料ゼロ」「全国220万人の介護労働者に8万円の賃上げ」「介護サービス利用者負担ゼロ」が実現できます。軍拡より人にお金を使って長寿を喜べる社会にしたいです。(矢吹)

山科支部であつたいい話

支部の女性組合員Aさん伏見にあるショッピングセンターによく行かれます。バス停がすぐそばにあり、スーパーや専門店、広いフードコートもあって便利なのです。何回も通ううち、名前も住まいも知らないけど顔なじみになった女性が何人かでき、おしゃべりを楽しむようになりました。京都市長選挙終盤のある日、Aさんが「きょうは福山さんの演説会に行くからもう帰るね」と立ったところ、相手の方が「それ何？私も行きたい」と言われ本当に会場まで来られました。そして地域の方たちのリレートークに「うんうん」とうなずき、福山さんの演説には「分かりやすいなあ」と大きな拍手をされていたそうです。そして後日、この女性は、年金者組合にも加入してくださいました。すごいと思いませんか、女性のおしゃべり力。(矢吹)

京都市長選「つなぐ京都」に参加した団体が、運動のまとめを行いました。早くから行動に立ち上がった団体と出足が遅れたところがあつた。宣伝カーが少なかったのも声を届けるために苦労した。スピーカーよりも対話の方が心に響く。また、対話するために色々勉強もできた。宣伝が楽しかった、こんなに頑張ったのに負けてくやしないなど。さあ、次の目標に向けて出発しましょう。(高橋)

母連 第57回近畿ブロック 母親運動学習会

3月24日(日) 全体会 11時～12時30分  
分科会 13時30分～16時

京都教育文化センター

講演 「戦争あかん！」

世界がひとつになるために」  
富田宏治さん(関西学院大学)

\*資料代1500円

\*10時半から物販あります